

1 県の取組み

事例1 Spectee (スペクティ) を活用した災害現場のリアルタイム状況把握

○県は情報収集サービス「Spectee (スペクティ)」を導入し、SNSからリアルタイムに災害情報を収集 (R3. 4月～)

○AIが24時間365日、SNS (X、Instagram、Facebook、TikTok等) を監視し、膨大な情報の中から岐阜県に関する災害情報や画像等を自動的に解析して収集した上で、地域や災害の種類ごとに一つの画面で分かりやすく表示

- 災害発生時に、現場からSNSに投稿された情報も含め即座に収集し、状況をリアルタイムに把握
- 市町村・報道等より早い段階で覚知できる可能性があり、迅速な人命救助・復旧作業に寄与



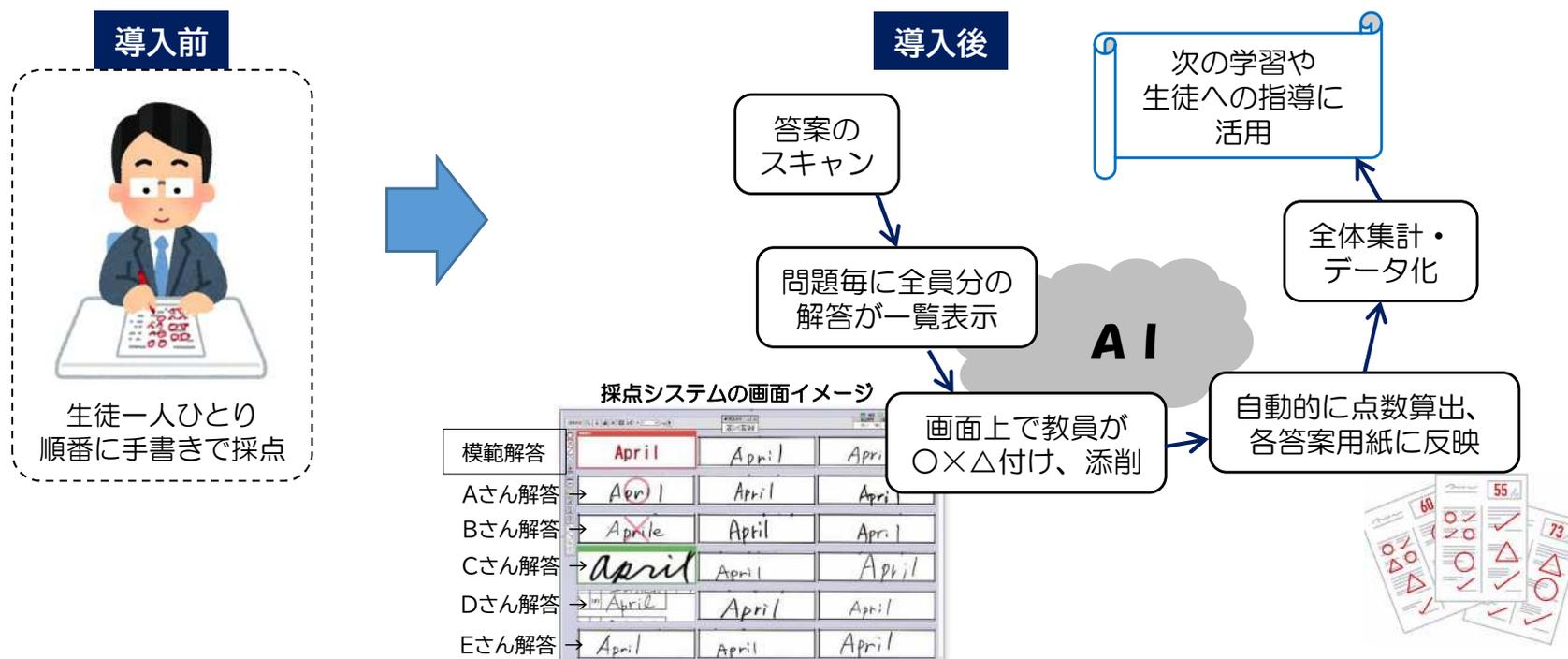
AIの活用事例 (2/4)

1 県の取組み

事例2 デジタル採点システムの活用による業務効率化

- 県立高等学校に、AIを活用したデジタル採点システムを導入（R3年9月～）
- 答案用紙をスキャンすると、AIが読み取り、自動で全員分の解答を一覧表示
- 教員が○×△を付けると、自動的に採点された結果が答案に反映されて印刷
- 採点結果の集計表も自動で生成

➤ 採点結果の精度向上と教員の採点にかかる労働時間削減



2 民間事業者等への支援

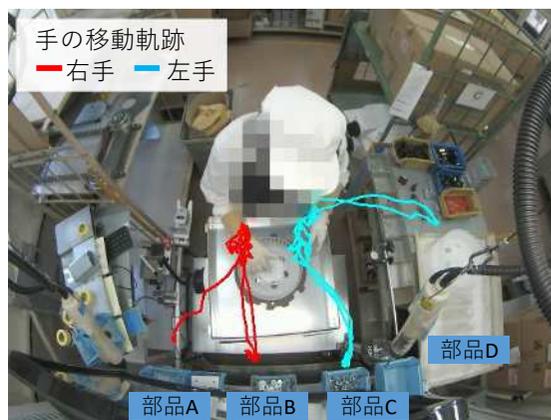
事例3 AIによる組立作業支援システム

(県試験研究機関による技術支援・研究開発【岐阜県産業技術総合センター】)

- 製品の組立作業中の作業者の手の映像をAIが解析し、作業ミス等の検知時にリアルタイムで作業者に通知を行うシステム
- 多品種少量生産の製品は、完成後の検査では内部の不良が見つからず出荷後に不具合の判明となる課題
- 組立作業時に作業ミスを防止する対策として骨格検出技術を活用し、正しい作業手順の映像をAIに学習させ、実際の組立作業時に、作業者の手の動作を追跡し、作業者の「手」が正しい手順通りに移動しないとAIが判断した場合に、作業ミスとして検出し、リアルタイムで異常を通知



➤ 完成前の組立作業時に作業ミスを検出することで不良品の発注・出荷を防止



正しい組立て手順の動き



部品Bを取り付け忘れた動き

AIの活用事例 (4/4)

2 民間事業者等への支援

※令和5年度岐阜県DX推進コンソーシアムワーキンググループ事業費補助金

事例4 AIによる需要予測システム（食品製造販売業界向け）

- 従来、担当者の勘と経験により需要予測をしていたが、再現性がなく、過剰供給による食品ロスが課題
また、従来はエクセルで手入力のうえ、手作業で発注
 - 「AIを活用した需要予測システム+高機能クラウドPOSレジ」を導入
 - 直近販売データ、SNSや天気予報などのビッグデータを学習データとして、販売数予測データを出力
販売予測を基に、必要な材料の数を計算し、自動で発注
- 需要予測率 : 16.0%向上 (72.2%→88.2%)
 - 業務効率化 (販売予測・発注作業) : 年間2,382時間 (94%削減)、年間448万円の効果
 - フードロス削減 (廃棄率) : 6.22%低下 (10.8%→4.58%)、年間1,654万円の効果

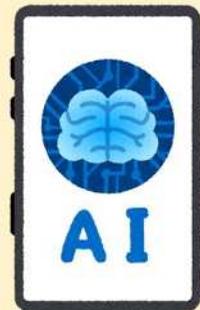
導入前

手作業 (PC, FAX, mail) で対応



導入後

AIが販売実績やビックデータを
活用して需要予測



需要予測精度は検証実験終了時には88.2%



商品の材料を計算し、自動発注

品名	単位	数量								
...